

森泉荘だより

第 10 号
H. 3. 12. 1

歳
の
瀬
に
思
う

庄
司
善
男

(その一)

格 差

は、わが森泉荘の利用者の多くは、大の相撲好きである。午後の三時頃より、手押し車の人、車椅子の人で、ホール利用(テレビ前は相撲評論家も毎場所)でいっぱい。これにも参加して利用者が星取大会にも参加していること、一点でも優勝者を稼ぎ、施設の横綱(優勝者)になる九州場所では、小兵の先頃の活躍が、連日の土俵

を盛り上げた。とりわけ、巨漢、曙を見事な立合で内掛けに倒した一番は、今年の名勝負である。体重差は百三キロというから、二倍以上だ。『小よく大を制す』体重の格差を不公平としない、それが相撲の醍醐味だと思ふ。それが昨日発表された、国民生活白書の「生活の豊かさ指標」での「一票の格差」、選挙区における「長短、所得額の高、労働時間」との「健康者と障害をもつ」との「差」が、生じているの事実である。格差が生じているの

も老人ホームにおいて、障害の有無にかかわらず、人格を尊重して、たとえ障害をもつ人であつても、あたりまえの普通一般の人々と同じ生活に戻してやりたい。『舞の海』対「曙」戦では、二、三倍ぐらいの「格差」は解消できるといふ自信を与えてくれた。『今年の快勝負』であつた。

(その二)

年末・年始

今年もあと一カ月で正月である。十二月は日差しは斜めに低く、日暮も早くなる。過ぎ来た一年の生活を締めくくろうと、何かと心あわただし月である。森泉荘でも「すす払い」、餅つき大会「そして一年越しそば」と行事がいつぱい、昔ながらの手作り。近年は餅つき機械が流行しているようだが、年寄りの皆さんはこうでは満足しない。そこで、これに用意し、湯気がモウモウと立ち、蒸し米を入れた「餅つき」、職員と利用者が一体と

なつて行われる努力は、「見事」の一言につきる。特にキネを持つ男性職員と「合取り」する女性職員の阿吽(あうん)の呼吸はピッタリ。出来上がった餅をキナコをかけて会食する。

(餅つきが隣へ来たという子かな)

正月に入ると栄養士献立による「おせち料理」がテーブルをかざる。「おせち料理」の由来は、昔、宮中で正月や五節句などの節日にふるまう料理のことを御節供と呼んでいたそう、それがいつからか「お正月だけ」をさすようになり、「おせち」となつたらしいのです。当時の「おせち」の中身は、にんじん、ごぼう、里芋、焼き豆腐の煮物、ごまめ、塩鮭、数の子、黒豆、なますなど。当時としては最上のごちそうだったようです。利用者のみ当森泉荘でも、「旬」を味わつていただくために、この「おせち料理」を正月に出すことにしております。

(森泉荘・施設長)

◎職員実寄稿 その100
映画会

玉造 鈴子

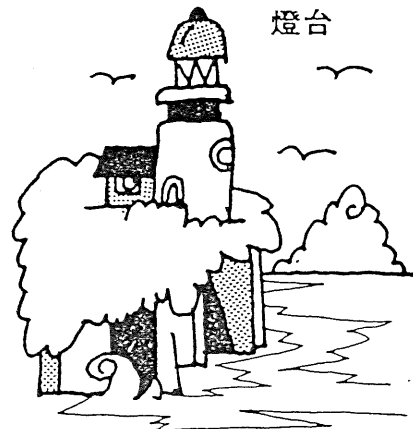
今日は、森泉荘の映画会。森泉荘では十一月から翌年の三月まで、月に一回映画会を行ってゐる。今日(十一月十一日)は、今年度初めての映画会だ。今回の映画は、「新・喜びも悲しみも幾歳月」。一番新しいものと聞き、現代ものなので、利用者の皆さんの反応はどうかなという思いがあつた。会場であるホールでは、暗幕を張ったり、スクリーンを出したり、ブラインドを降ろしたりと準備が進む。午後一時三十分、指導員の放送がある。歩ける利用者や、車椅子を操作できる利用者は、放送が始まるとすぐにホールへ集まってきた。ペットの利用者も準備よく、ホールにそつてゐる。又、おむつを使つてゐる利用者は、寮母がむつ交換を終えた順に、車椅子に乗せたり、手を引いたり、二時ころには参加希望

の三十六名が席に着いた。予定より少し早い二時ちょうどに映画が始まった。身動きもせず、皆、ほとんど身動きもせず、夢中で見てゐる。映画の中で、夫婦喧嘩や舅と嫁の会話シーンでは笑い声が聞こえる。途中、二回トイレにいったKさんは、「各居室にトイレがあるから、近くのトイレを使つてもいいんだよ」と言つても、「しぎでね(好きでない)」と言ひ、自分の居室のトイレまで行く。やはり今日も自分の居室のトイレまで行って来た。車椅子に移ろうとしてゐる寮母が側へ行く、「トイレへ行く」と話すため、車椅子に介助し、通路の方へ連れて行く。この日は、自分の居室の方へ行ったので、自分の居室の方へ戻つたのだから、「疲れて思つて再びトイレへ行ったから」

へ来て見ている。上映中に面会があり、残念ながら途中で居室へ引き返したSさん、又、面会に見えなかった人と一緒に見ている利用者もいる。映画が始まり、もう二時間だ。そろそろ疲れて居室へ戻る人が出てくるのは車椅子に乗つたYさん一人だけである。ベットの利用者も、いつもはごはんと食べる間だけベットを起こすのさえ、食べ終るとすぐ「寝せでくれ」という声が聞かれるのに、今日は、一人だけ少しベットを倒しただけ、皆目を見開いて見入つてゐる。そろそろ映画もクライマックス。主人公と父親が船から「安芸の宮島(厳島神社)」を見物するシーンになると、何度か涙をぬぐいながら見てゐる利用者が多かつた。「新・喜びも悲しみも幾歳月」も午後四時十五分、幕を閉じた。寮母が次々と移動時の利用者居るに、皆満足そうなおもひ顔は、皆満足そうなおもひ顔。今までは「よかつた」「おもしろかつた」「よかつた」「おもしろかつた」等々の声がかれた。早く帰るはずの職員

が帰らずにおむつ交換が入つたり、午後の休憩が時間が取れなかつたことなどは、利用者「よかつた」ということばを聞き、満足した顔を見る。それができたことで、忘れてしまつた。皆さんが喜んでくれて本当によかつたと思ふ。最後に、どんなに私たちが職員が、手厚く介護をしても、映画会や他の行事で喜んでも、ばつて、家族の方々のことばや面会にはかなわないと思ひます。どうか、一週間には逢いに来てください。お願い致します。

(寮母)



て、おもしろい仕事のように
 思えてきて、仕事を終るの
 と、少し時間が余ったりも
 したが、いろいろ仕事で次
 らかへと入ってくるので、
 しかつたけれど、「大変だ
 あ」でも思い始めていた。
 中での一番大変だったのが
 昼食の時に、おじいさんや
 ばあさんたちの食べる手
 と、いろいろな感じのこ
 ことをい
 ことがあり、一つ大変だ
 つ一つの部屋を回ってお
 さんやおばあさんたちと
 をしてみることです。何を
 いたらいの、だろかなどと
 いろいろ戸惑ったりしてま
 い、思うように話ができな
 に、なんか残念だったな
 どと思いました。
 と、それから私たちがよう
 く、朝食をとることができ
 た。おみそ汁が、森泉荘の
 おみそ汁やおばあさんたち
 さんや、おばあさんたちは、
 こういう物をいつも食べた
 飲んだりしていることが解
 た。それに、私は初めてお
 をたむの、私に挑戦してみ
 のは、暑い部屋の中でやっ
 った。でも、それも大変なこ

かなかやれたのではと思っ
 ている。(あまり多くは、や
 ことができなかったが。)一
 として、私は最後に一つな
 ければ良かったのが、この
 文である。(あまりうまく書
 くことができないから。)一
 でも朝の九時から夕方四
 時までという短い時間だ
 けれども、おじいさんおば
 さんたちのことが、少しは
 解るような気がする。一番
 初にやった車椅子や目の不
 自由な人のことを自分自身
 が体験

することができたからだと思
 う。それに、やっていると
 は、やっぱりとても怖くて、
 「大丈夫だろうか」などと
 う心配もしてしまったりし
 た。一日だけという短い間
 だけでもこのような体験を
 することもできたし、おじ
 さんやおばあさんたちとも
 たくさんお話をして、仲良
 くなることもできたので、
 良かったと思つた。本
 に良かったと思つたので、
 機会があったら、ぜひまた

チャレンジしてみたいと思
 う。おじいさんやおばあ
 さん、とても優しい人達で
 なあと思えました。
 今日(八月七日)は、本
 にとてもよい体験をしたな
 思った。この日のことを
 からも忘れずに、一生懸命
 張っていきたいなあと
 いる。
 また来年もこのボランティア
 ア活動をやりたいなと思
 います。

★厚く御礼申し上げます

平成三年七月
 平成三年一〇月

奉 慰 住 間

- 七月二〇日 庄司 チエ
- 七月二四日 庄司 チエ
- 七月二九日 松岡 アキ
- 八月五日 松岡 アキ
- 八月五日 森中生ボラン
- 八月五日 ティア・四班

- 八月六日 阿仁部美容師組合
- 八月二〇日 清水 かおる
- 九月五日 前田婦人会
- 九月七日 庄司 チエ
- 九月八日 松岡 アキ
- 九月二五日 吉屋布婦人会
- 一〇月二四日 前田保育園児

- 庄司 恭 居
- 白沢 恭 居
- 阿仁理容師組合前田地区
- 伊藤 鉄 治

- 庄司 善 男
- 杉内 秀 松
- 米内 高 一
- 新屋 史 子
- 日本たばこ産業 大 支
- 武石 祥 泰 造
- 金内 高 一
- 米内 高 一
- 米内 高 一
- 秋田県医薬品小売り商業
- 組合
- 日本看護協会秋田県支部
- 鷹阿地区支部

※勝手ながら
 敬称は略させて
 いただきました。

詩

三浦 イト

小春日よりの
 やわらかい太陽の光が
 窓ごしに流れる。
 暑い日差しを、
 うけながらもう一息つく、
 緑の庭園が美しい！
 景色を眺めていると、池のまわりの
 石の置物の上で、
 犬が寝そべっている。
 お日様が暖かくし
 てそそいでいるから
 だろう。 気持ちよさそうに。



犬が池のコイを一匹ほしくて、ねらっているうちに
 ねむくなつて、ねぞびえてしまったと思います。



※ 文 字 永 井 直 人

詩 三浦イト
 切り絵 鈴木鐵治
 文 字 永井直人
 ※ 一月九日から短期入所
 して、いた鈴木さんの切りま
 した。それを、永井介助員
 が色紙にしたものを、縮小
 掲載させて頂きました。

こらむ

今年には、実習や体験学習
 の中学生・高校生・大学生
 新施設の職員が森泉荘を訪
 れた。
 教えることより、教わる
 ことが多かったように思え
 る。
 ♣ 台風一九号の直撃を受け、
 森泉荘の回りの景色も一変
 しました。皆さんの所では
 いかがでしたでしょうか。
 遅ればせながら、お見舞
 い申し上げます。
 ♡ 来年こそは、天災？のな
 い平穏な一年であってほし
 いものである。